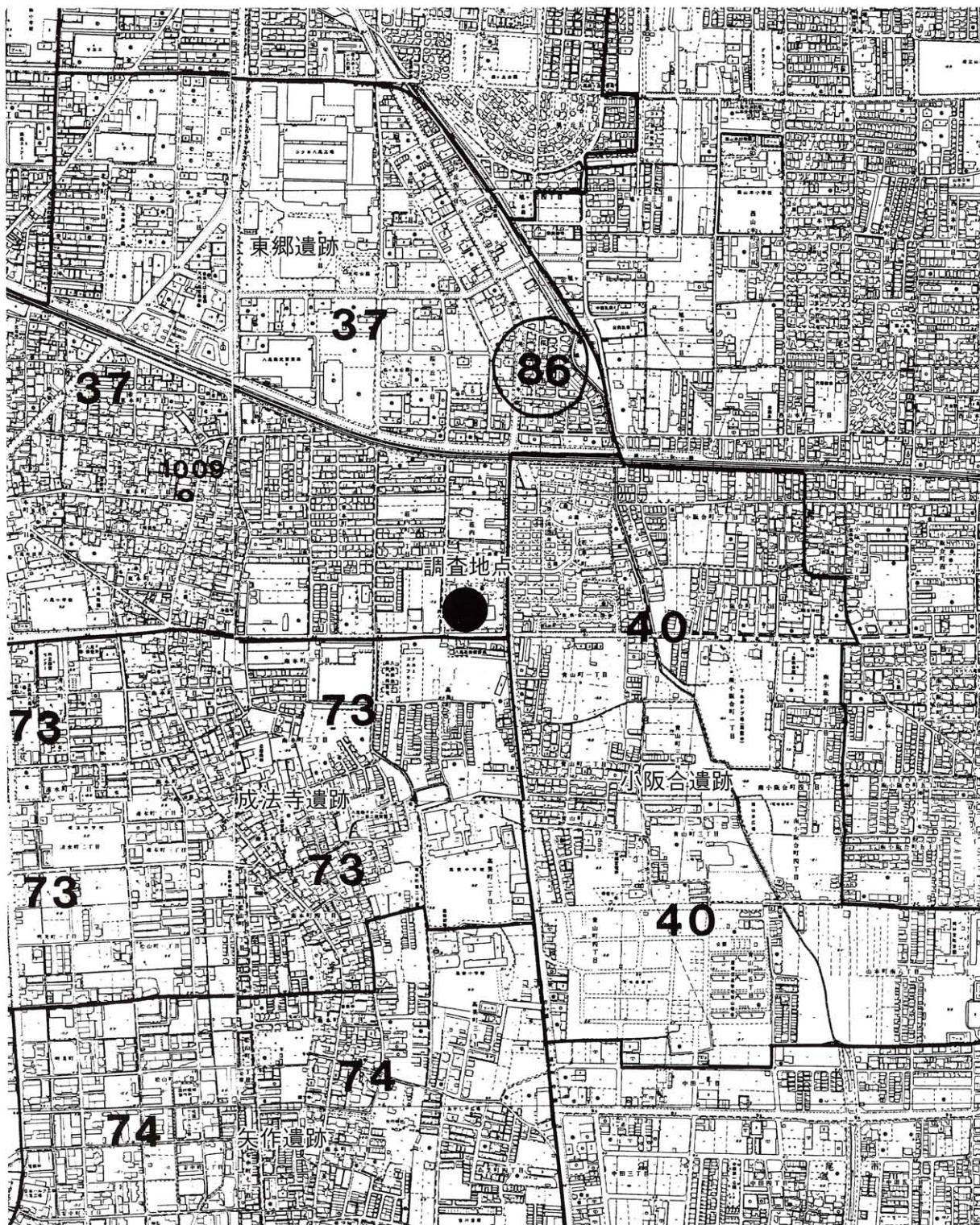


東郷遺跡

大阪府教育委員会

平成20年7月31日



調査地点と周辺遺跡 (1 : 10,000)

はじめに

東郷遺跡は八尾市内中央部である莊内町に所在する遺跡です。以前より府道の拡幅工事、民間事業に伴う調査などにより、順次発掘調査が実施されており、弥生時代から近世にいたるまでの幅広い時期の遺構や遺物が検出されています。

今回の東郷遺跡の発掘調査では包含層より弥生時代後期を主体とする土器がまとまって出土しました。東郷遺跡の性格を考える上で貴重な資料になるものと思われます。報告にあたり、調査の実施に協力していただいた地元の方々をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。

平成20年7月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 富尾昌秀

例言

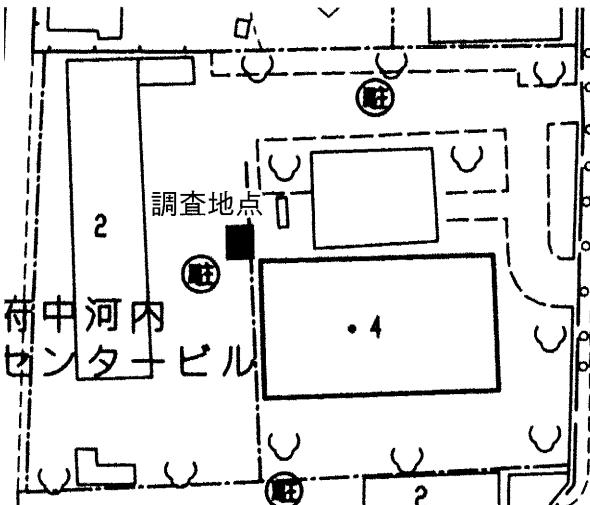
1. 本書は大阪府教育委員会が大阪府都市整備部の依頼を受け、中河内府民センターの非常用発電設備工事に伴い、平成20年度に実施した八尾市莊内町所在東郷遺跡の発掘調査報告書である。調査番号は08005である
2. 現地における調査は文化財保護課 調査第一グループ 副主査 横田 明が担当した。
3. 調査に要した経費は大阪府都市整備部が負担した。
4. 調査の実施にあたっては大阪府都市整備部事業管理室、大阪府住宅まちづくり部公共建築室 中河内府民センター、大阪府教育委員会市町村教育室をはじめとする諸機関、関係諸氏の協力を得た。
5. 本書の執筆・編集は横田が担当した。
6. 本報告書は300部を作成し、一部あたりの単価は326円である。

第1章 調査に至る経過

今回の発掘調査は八尾市莊内町所在中河内府民センターの非常用発電設備工事に関する調査であった。都市整備部より文化財保護課に工事予定地の取り扱いについての協議があった。協議の結果、当該地は東郷遺跡の周知の包蔵範囲に該当しており、過去に実施された周辺地域の調査においても、都市計画道路平野中高安線の拡幅工事、民間事業に伴う調査などでも遺構・遺物が検出されていることから、発掘調査を実施することが必要となった。現地調査は5月初頭に着工し、5月末には全ての調査を終了し、現地を撤収した。

調査にあたっては、現地では事業者により鋼矢板による土留が事前に行われていた。また府民センター造成の際の盛土が1m以上にも及ぶことから、盛土の除去は文化財保護課の監督員の立会いのもとに、事業者によって重機を利用して実施された。

1mにもおよぶ盛土を重機で除去した後は、人力により遺物包含層を1層ずつ除去しながら、遺物を取上げ、遺構を検出、掘削するなどの作業を行った。



第1図 調査地点位置図

第2章 調査の成果

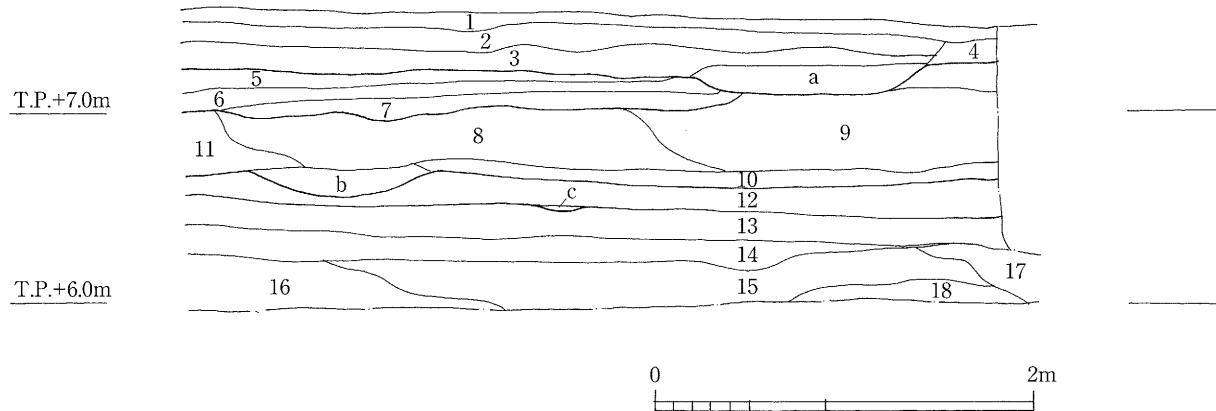
1. 基本層序

現地は現在中河内府民センターの敷地であり、センター建設の際の造成土が1m近く堆積していた。その盛土を除去し、旧耕作土上面を検出したのがT.P.+7.5m前後のレベルであった。

第1層 現在の府民センターが造成される前まで利用されていた近年の耕作土層と思われる。層厚約40cmで黒灰色～緑灰色のシルトからなる。

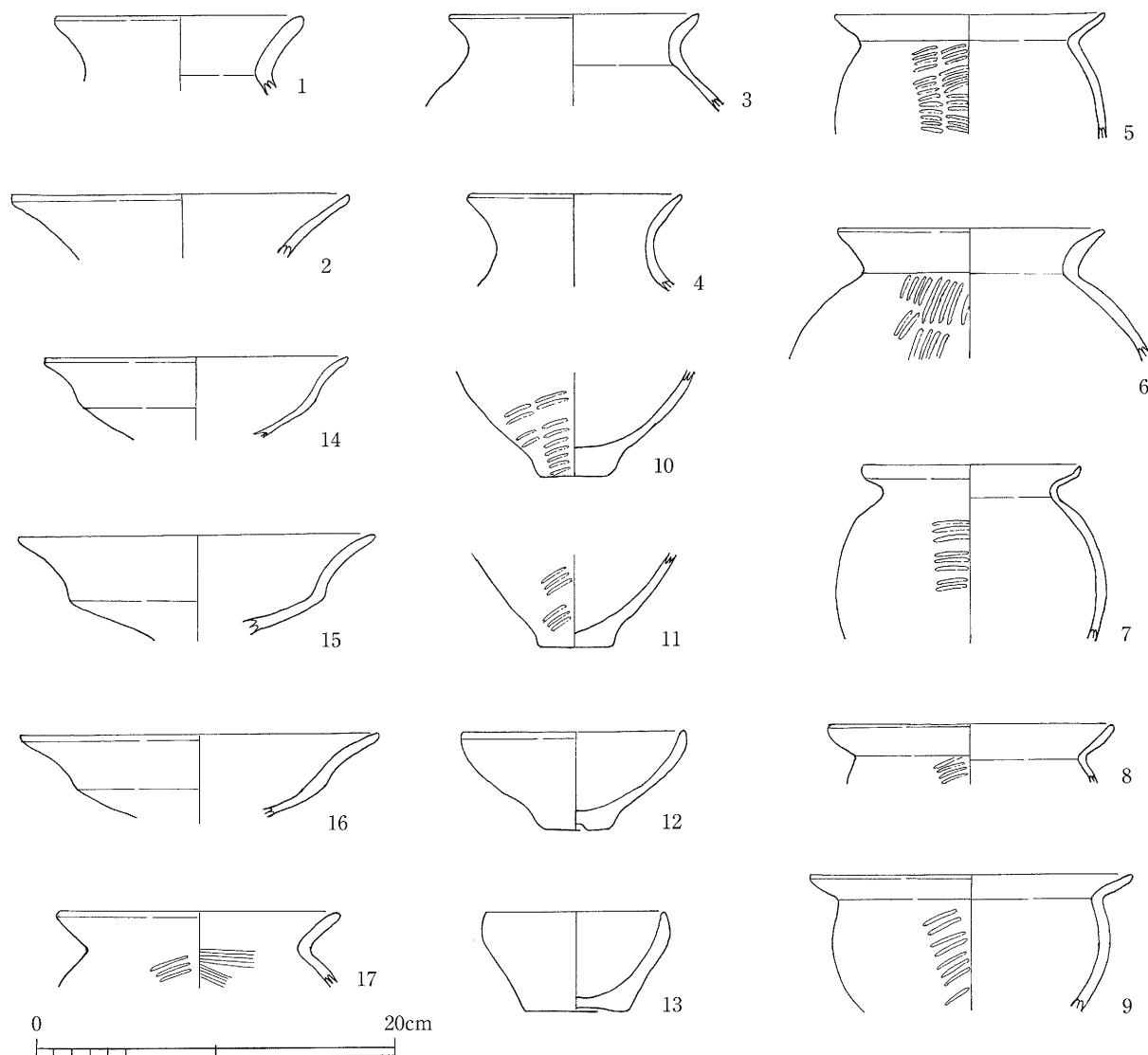
第2層 近世～中世時期までの耕作土層であると思われる。上面はT.P.+7.2mを前後するレベルであり、層厚約20cm、緑灰～明黄褐色などのシルトが堆積している。

第3層 灰褐色シルトを主体とする層であり、層厚約30cmをはかる。上面はT.P.+7.0mを前後するレベルであり、土層断面観察ではこの上面を基盤とする落ち込みのようにみえるものがあった。これは深さ20～30cmで、黄褐色系統のシルトを含んでいる。調査区北側が搅乱により破壊されており、北側の立ち上がりは確認できなかつたので、これが本来溝状のものであったかどうかは断定できない。しかしながら弥生時代後期を主体とする遺物がコンテナに4箱近く出土しており、周溝などに伴う出土遺物だった可能性も考えられる。



第1層	1 黒灰色シルト（耕作土）	第3層	8 黄褐色シルト	第6層	15 暗灰色粘土（細レキ含む）
	2 暗黒綠灰色シルト		9 灰黄褐色シルト		16 淡灰色砂礫
	3 緑灰色砂まじりシルト		10 明黄褐色シルト		17 暗灰色粘土
	4 緑灰色シルト		11 灰褐色シルト		18 淡綠灰色シルト
第2層	5 灰黄褐色シルト	第4層	12 明黄褐色シルト	a	灰褐色粘土（溝12）
	6 明黄褐色シルト	第5層	13 灰白色粘土	b	明黄褐色シルト（溝16）
	7 灰黄褐色シルトと 明黄褐色シルトの混合層		14 灰白色粘土と 暗灰色粘土の混合層	c	淡黒灰色粘土（溝17）

第2図 土層断面図



第3図 出土遺物実測図 (1~16:第3層出土 17:017溝出土)



第4図 第3層遺物出土状況1



第5図 第3層遺物出土状況2

第3層出土遺物群

弥生時代後期を主体とする土器群が検出されている。この土器群はコンテナ約4箱におよび、土器群は器種としては壺と高坏を主体としており、口縁部が上を向いた状態で検出されたものが多いように観察された。狭い範囲で一部分が検出されたのみなので性格は不明であるが、周溝墓の周囲を取り巻く周溝の一部であった可能性も考慮される必要があるものと考えられる。

第3図の内、1～16までが第3層より出土した遺物である。1～4は壺であり、5～11は甕、12～13は小形鉢、14～16は高坏である。弥生時代後半から庄内式時期にかけての様相を示している。

第4層 明黄褐色シルトを主体とする層で、層厚10～20cmをはかる。上面はT.P.+6.7mを前後する。この層の上面からは調査区の南よりに小さな溝状遺構が1条検出されている。

第5層 灰白色粘土を主体とする層であり、層厚約20cm、上面はT.P.+6.5mをはかる。この層の上面では調査区の南よりで小さな溝状遺構が1条検出されている。

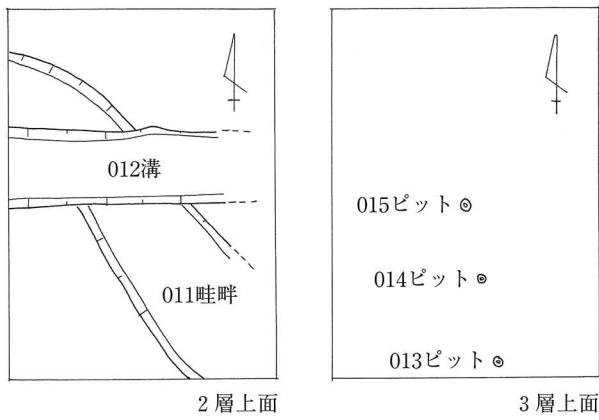
第6層 暗灰色粘土や砂礫などを主体とする層であり、層厚は約0.4m、上面はT.P.+6.3mをはかる。この層は水平な状況の堆積はあまり見られず、斜め方向の堆積が多いように思われる。不安定な環境の下での堆積であったのだろうか。

2. 遺構と遺物

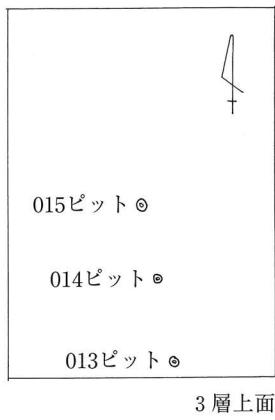
第2層上面遺構

第1層を除去し、第2層上面を精査したところで遺構を検出した。検出した遺構面のレベルはT.P.+7.0～7.2mを前後する。低平な畦畔状の高まりが西北から南東の方向にのびており、それが東西方向にのびる012溝に切られている状態である。この溝状遺構は上層からの切り込みであった。

011畦畔 幅2m、高さ0.1～0.2mの低平な高まりで調査区の西北から東南に伸びる。この高まりは灰褐色シルトを主にし、両脇には粘土ブロックを含む明褐色シルトが堆積していた。小範囲での検出であり詳細は不明であるが、中世時期の耕作に伴うものと考えられる。



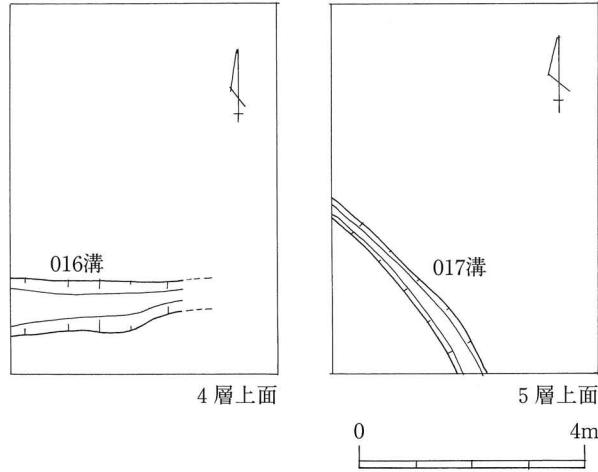
2層上面



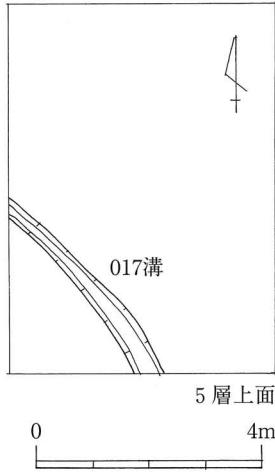
3層上面



第7図 第4層上面状況



4層上面



5層上面

0
4m

第6図 遺構配置図



第8図 第5層上面状況

第3層上面遺構

3層上面を精査したところで遺構を検出している。搅乱の影響で調査区北側の様相は不明である。しかし調査区南側で3つのピットが一列にならんでいる状況が確認できた。このピットは3点ともに径15cm前後、深さも10cm前後と、削平の影響をうけているのか、小さなピットであった。はっきりした遺物がなかったので、時期は不明であるが、中世以降の遺構と思われる。

第4層上面遺構

第3層を除去し、第4層を精査したところで検出した。この面も遺構は疎らであり溝が1本検出されたのみである。この面のレベルはT.P.+6.6~6.7mを前後する。

016溝 調査区南端で検出された溝状遺構で、東西方向の溝である。幅約1m、深さ約0.15mで明黄褐色シルトを埋土とする。

第5層上面遺構

第4層を除去し、第5層上面を精査したところで検出した。この面も遺構は疎らで溝状遺構を1本検出したのみである。上面のレベルはT.P.+6.5mを前後する。

017溝 調査区南側で検出された溝状遺構で、第2面上層で検出された畦畔状高まりと同様に西北から南東の方向へ延びる。幅0.4~0.5m、深さは約0.1mである。淡黒褐色粘土が内部に堆積しており、中からV様式の様相をしめす甕が1点（第3図17）出土している。

第3章　まとめ

今回の調査は中河内府民センター敷地内西側の限定されたきわめて小さな範囲を対象とした調査であったが、比較的まとまった分量の遺物が出土した。出土した遺物の大半は弥生時代後期に属するものであった。

以前、大阪府教育委員会が実施した都市計画道路平野中高安線の拡幅工事に伴う発掘調査は、今回の府民センター内の調査地点よりも南～南西の地点に相当するものである。弥生時代に関連する遺構・遺物については、これらの調査地点においても今回の調査と類似したレベルにおいて水田面、あるいは中期に遡る自然河川などが発見されており、今回実施した調査によってそれよりもさらに北側にまで弥生時代の遺物包含範囲が広がっていることが確認された。今回の調査は狭い範囲の調査に過ぎず、後世の搅乱による損傷を受けている部分も多かったので、これら遺物の性格などについての詳細は不明といわなければならない。断定はできないものの本来は、周溝墓の周囲にめぐらされた周溝に伴う遺物であった可能性も想定されるものである。今後、近隣地域での調査知見の増加が待たれるところである。

また周辺の調査では弥生時代のみならず、古代、中世、近世と、広い時代の多様な遺構・遺物が発見されている。しかしながら今回の調査区では他時期の遺構・遺物は貧弱である。本来はこの地点にあったものと思われるが、耕作地の関係などにより後世の削平によって消滅してしまったのであろうか。

報告書抄録

ふりがな	とうごういせき
書名	東郷遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2008-1
編著者名	横田 明
編集機関	大阪府教育委員会 文化財保護課
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06-6941-0351
発行年月日	2008年7月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とうごういせき 東郷遺跡	やおししようないちょう 八尾市莊内町 2丁目1-36地内	27212	37	34	135	平成20年 5月7日～	29	中河内 府民センター 非常用発電 設備工事
				37	36	平成20年		
				23	41	5月23日		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東郷遺跡	集落	弥生時代 中世	溝 畦畔、溝	土器、石器 土器	

要約	今回の発掘調査は中河内府民センターの非常用発電設備工事に伴うものであり、府民センター敷地の西側の地点にあたる。地表面から1mまでの地点は近年の盛土であり、それより以下の深度で弥生時代後期から中世に至るまでの遺構面を4枚検出した。遺構は全体的に希薄で、小さな溝状遺構が主体であった。遺物は標高T.P.+6.8mを前後する層位(第3層)から弥生時代後期を主体とする土器群がコンテナに4箱ほど出土している。器種としては壺と高杯が多い。狭い範囲の調査であり断定はできないが、周溝墓の周溝にともなう遺物を検出した可能性もある。
----	--

大阪府埋蔵文化財調査報告2008-1
<u>東郷遺跡</u>
発行 大阪府教育委員会
〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目
(TEL 06-6941-0351)
発行日 平成20(2008)年7月31日
印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所